

1985年10月14日

日本細菌学会関東支部

関東支部会員の皆様へ

—日本細菌学会関東支部長就任の辞—  
帝京大学医学部細菌学教室 木村貞夫

今年行なわれた評議員選挙の結果、選出された新評議員の先生方により支部長の選挙が合田支部長を議長として、9月6日に行われました。その結果小生が次期支部長に選出されたことを現支部長より知らされました。

『大変光栄の極みではありますが、小生甚だ浅学菲才で、果して支部長の重責に絶え得るや否や危惧するものであります。幸い立派な新評議員の先生方がおられますのでそのご指導の下、会員各位のご支援を得て支部活動を展開していきたいと思ってお引受した次第であります。』

小生は近藤、古岡、中谷の各支部長の下で3期支部評議員を勤めさせて頂きましたので支部活動には多少の経験があります。しかし合田支部長になりまして、支部活動の上で新しい試みも行われ、支部NEWSが発行されるようになったのもその1つかと思います。

そこで先日支部長をお引受けすることになり、新旧評議員会開催のご連絡を受けた時、『支部長就任の辞』を書くようにと合田現支部長より命令されました。

『就任の辞』とは大変謙爾な言葉であります。いつも教室の諸君から小生の書くものは漢字が多くてむづかしいと言われておりますが、合田先生も結構鹿爪らしいことをおっしゃると意を強くしました。

合田先生のご要望に基づいて、襟を正して書いた『 』の中が公式の『就任の辞』ですが、折角の機会でありますので以下少し小生の抱負(?)を述べます。

本来関東支部設立の目的は、会則にもありますように(あまりお読みでないと思いますが)「日本細菌学会本部との緊密な連絡のもとに細菌学を中心とする領域の学術の進歩を促進すること」にあります。

これに基づいて支部總會の開催、学術集会の援助、本部との連絡などが行なわれております。しかし、会員の方々の関心は専ら支部總會にむけられ、それもあまり高いとは申せません。そのため支部總會長が苦心される所以でもあります。学術集会の援助、本部との連絡などはあまり活発ではありません。幸い本支部には本部の役員の方先生方も多数おられますので、支部活動にも関心を払って下さるようお願いします。

また前評議員会によってはじめられました支部NEWSの発行は、支部活動を高めるためのPRとして大変よい企画であると小生は個人的に思っております。いずれ新評議員会で検討されることと思っておりますが、会員の皆様からもご意見をお寄せ頂きたいと思っております。

小生微力ではありますが、新評議員の方先生方と共に支部活動に努力して参りたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をお願いして支部長就任のご挨拶とさせていただきます。

日本学術会議・微生物研究連絡委員会・  
日本微生物学協会・IUMSについて

合田 朗

会員の諸先生方も既に御存知の事と存じますが、第13期学術会議会員の選出も終りまして、細菌学会に属して居られる方の中からは、第6部で新井正先生、第7部では石田名香雄先生が新たに学術会議会員になりました。両先生の今後の御活躍をお願いすると共に学会会員の皆様の御支援をお願い申し上げます。

微研連の全委員の先生方の御名前は未だ公表されておりませんが、細菌学会からは、吉岡守正先生を推薦しております。近日中に微研連の委員の会合があり、委員長が決定されると聞いております。

日本微生物学協会は本年より抗生物質協議会が加わり、20団体となりました。本年は役員改選の年に当り、先日各団体から新理事が推薦され新理事会も開催されました。なお、会長は引続き桑藤樹先生をお願いすることになり、副会長は有馬啓先生、佐々木正五先生をお願いすることとなりました。

IUMS関係では、来年(1986)マンチエスターで総会が開かれますが、当会議でIUMS会長に有馬啓先生が推されることとなっております。又、1990年のBacteriology Division, Mycology Divisionの総会を日本へ招くための準備は現在進行中です。

集 会 案 内

□第55回 日本細菌学会関東支部総会

日 時：昭和61年6月2日(月)

場 所：東邦生命ホール(渋谷)

会 長：吉川昌之介教授(東大・医科研)

内 容：1. 病原細菌学における分子遺伝学的アプローチ(仮題)  
2. 感染症の予防と治療の将来像(仮題)

□第56回 日本細菌学会関東支部総会

日 時：昭和61年10月上旬または中旬の2日間

場 所：松本市中央公民館

会 長：寺脇良郎教授(信州大学)

内 容：特別講演1題、シンポジウム1題、を予定(詳細は未定)

□第6回 理研腸内フローラシンポジウム

日 時：昭和60年11月26日(火)10時~17時

場 所：ヤクルトホール

主 催：理科学研究所動物薬理研究室

協 力：ヤクルト本社

内 容：別項参照

国際交流委員会より  
日本・中国国際微生物学会誌について  
神中 寛

日本細菌学会国際交流委員会の事業の一つとして、1983年以来中国微生物学会との交流がとり上げられ、昨年夏、第1回の日本・中国国際微生物学会誌(CJICH)が、「上海シンポジウム」として開催されたことは、会員の皆様も既に御承知のことと思います。この合同会議は2年ごとに開催され、また当分の間、中国側出席者の便宜のために、開催地を上海にすることが双方で合意されておりますが、そのようなことで、国際交流委員会では1986年の第2回合同会議の準備に入っておりますので、支部会員の皆様にも、この紙面をかりてその情報をお伝えする次第です。

今回の日本側の事務局は次の通りです。  
会 長 \*斎藤和久(細菌学会理事長・慶応大・微生物)  
副会長 西田尚紀(金沢大・微生物)  
" 大友信也(国際交流委員長・化血研)  
" 三輪谷俊夫(阪大・微研)  
実行委員\*橋本 一(群馬大・微生物)  
" 金政泰弘(岡大・微生物)  
" 右田俊介(金沢大・癌研)  
" 中村信一(金沢大・微生物)  
" 野本亀久雄(九大・生防研)  
" \*小沢 敦(東海大・微生物)  
" \*徳永 徹(予研・細胞免疫)  
" 吉田昌男(岩手医大・微生物)  
" \*神中 寛(防衛医大・細菌)  
(\*は本支部所属)

期日は今のところ未定ですが、昨年同様、8月末ごろ上海市の科学会堂で開催される筈です。中心主題は「感染領域における免疫学(仮題)」で、この主題に関連する特別講演が第1日に予定され、あと2日間は小会場にわかれ、一般公募演題(発表用語英語、約15分ずつ)の発表にあてられることになると思われます。一般演題は特に上記の主題に限りませんが、会場、宿泊設備の関係で、参加者は70人以下に限定されますので、場合によっては事務局で中国側の演題と照合しながらその採否を決定することになります。昨年の例では一般演題48題、うち日本側演題23題でした。もちろん出席のみで演題を提出しない人も前回同様受け付けます。

なおシンポジウム終了後、グループツアーが予定されています。昨年は、蘇州、武漢-桂林、北京-西安の3コースが組まれ好評でしたが、来年は杭州、西安-北京、ウルムチー北京、済南-孔子廟-泰山などのコースが一応候補に上っております。

◎再度のお願い!!

教育小委員会

先般本ニュース第2号でお願い致しました研究テーマなどに関するアンケートの葉書を未だ御返送頂けない会員がおります。整理の都合上至急お送り下さいますよう再度お願い申し上げます。

なお早速御協力を頂きました会員には深くお礼を申し上げます。

## 学術集会後援について

### 学術小委員会

関東支部会は支部会員の皆様が主催される微生物学に関連する講演会を後援しております。積極的にご利用下さい。

### 対象となる講演会

会員が主催する会で、広く会員を参加させてよいとお考えになるもの。

### 助成

1. 主催者が会を通知するためのハガキ(100枚以内)をお送りします。
2. 会の開催にかかわる費用の一部、支部長の判断で1件1万円を限度に行います。

### 申し込み方法

支部会事務局まで直接お申し込み下さい。

帝京大医学部細菌学教室 池田達夫  
電話 03(964)1211 内線 2304

本助成の活用によって研究室間の交流が一層深まることを期待します。

## 第一回 細菌の病原性とその分子遺伝学 研究会報告

医学細菌学の最大の課題の一つ、「病原性」を相換えDNA技術を用いて解明しようという動きが世界的に著明となってきた。そこで病原細菌学者と分子遺伝学者の情報交換の場を作るため、上記研究会(日本細菌学会関東支部後援)が組織され、その第一回研究会が昭和60年8月9日東大医科学研究所講堂において開かれた。主題は「赤痢菌」で、「歴史と現状」(松原毅雄:以下敬称略)、「研究の流れ」(中谷林太郎)、「赤痢菌毒素」(竹田美文)、「染色体性病原性決

定遺伝子」(岡村登)、「プラスミド性病原性決定遺伝子」(渡辺治雄及び笹川千尋)(題名略記)の6人の講演が行われた。猛暑の中、冷房のない講堂に200人という予想外の参加者があり、発起人としても余りの熱意にうれしい悲鳴をあげる程であった。なお、選挙により吉川昌之介、中谷林太郎、竹田美文、橋本一、寺脇良郎の5名に運営委員を委嘱し、事務局は東大医科学研究所細菌研究部におき、委員長委嘱により権原宏文を事務局幹事に選出した。今後一年に一回5人の運営委員が順次研究会を主催する。会員制はとらず、前年度参加者には原則として次回の案内状を送付することになっている。この他希望者は事務局に連絡すれば案内状の送付を受けることができる。当分の間抄録集など発行の予定はない。

## 昭和61-63年期日本細菌学会関東支部 役員を紹介

関東支部会則により、次の方々が次期役員として決定しました。

支部長 木村貞夫(帝京大・医・細菌)  
評議員(公選)

新井俊彦(明治薬大・微生物)  
川上正也(北里大・医・分子生物)  
北野繁雄(城西歯大・口腔微生物)  
工藤泰雄(都立衛研・微生物)  
島村忠勝(東海大・医・微生物)  
高橋昌巳(聖マリアンナ医大・微生物)  
早津栄蔵(北研・細菌)  
久恒和仁(城西大・薬・微生物)  
三上 襄(千葉大・生物活性研)  
山口英世(帝京大・医真菌センター)

(支部長推薦)

河野 恵(東京薬大・微生物)  
中村明子(予研・細菌)  
野沢龍嗣(順天堂大・医・細菌)  
平山寿哉(医科研・細菌感染)  
光岡知足(東京大・農・実験動物)

第6回理研腸内フローラシンポジウム

「腸内フローラと感染症」

1. ヒトの下痢症と腸内フローラ  
中谷林太郎他(東医歯大・医)
2. 抗生物質投与に伴う腸内フローラの変化と誘発下痢症に対するビフィズス菌の効果  
田中隆一郎他(ヤクルト中研)
3. 抗生物質による偽膜性腸炎  
島田馨他(東大医科研)
4. マウスの緑膿菌感染に及ぼす腸内フローラの影響  
浦野徹(熊本大・医)
5. ブタ赤痢と腸内フローラ: マウスの実験的 Treponema hyodysenteriae 感染における感染抑制因子を中心に  
山崎俊幸他(武田薬品)
6. 胆石症発症における腸内菌の役割  
田畑正久他(九大・医)
7. ブタの膿瘍と腸内フローラ  
辨野義己他(理研)
8. ウシの肝膿瘍  
新城敏晴(宮崎大・農)
9. 総合討論 司会・光岡知足  
参加費は無料です。  
詳しくは〒351 埼玉県和光市広沢 2-1  
理科学研究所動物薬理研究室 辨野義己  
0484-62-1111 (内5222) まで御連絡下さい

支部評議員会記事

□新評議員会

日 時: 昭和60年9月6日(金)  
17:30 ~18:30

場 所: 北里大学北里本館中会議室  
出席者: 川上正也、北野繁雄、工藤泰雄、合田朗(支部長)、島村忠勝、高橋昌巳、早津栄蔵、久恒和仁、三上襄、山口英世、渡辺満(幹事)

欠席者: 新井俊彦

議 題:

1. 新評議員の紹介  
合田支部長より新評議員の紹介があり、各評議員の挨拶があった。
2. 支部長の選出  
会則第6条選挙細則にもとづき、新評議員による単記無記名投票を行った結果、新支部長に木村貞夫教授(帝京大・医・細菌)が選出された。
3. その他

□第2回評議員会

日 時: 昭和60年9月24日(火)  
17:30 ~18:45

場 所: 北里大学北里本館中会議室  
出席者: 新井俊彦、緒方幸雄、大沢伸孝、金ヶ崎士朗、北野繁雄、工藤泰雄、合田朗(支部長)、島村忠勝、神中寛、中野壽夫、早津栄蔵、光岡知足、和気朗、渡辺満(幹事)

欠席者: 小河秀正、三上襄、山口英世

議 題:

1. 第11回評議員会議事録確認の件
2. 第54回支部總會準備状況報告  
(神中支部總會長)
3. 60年度決算、61年度予算について

合田支部長より9月24日付の決算報告がなされた。61年度予算は60年度予算に準じて作成された。

#### 4. 選挙管理委員会報告

和気選挙管理委員長から開票結果、および会計報告があった。

#### 5. 各小委員会報告

緒方教育小委員長よりアンケート調査の作業経過について報告があった。

#### 6. その他

支部ニュース第3号の発行に関して原稿の要請があった。

### □新旧合同評議員会

日 時：昭和60年10月3日（木）

17:30 ~18:30

場 所：六本木“蘆山”

出席者：新井俊彦、緒方幸雄、大沢伸孝、小河秀正、河野恵、金ヶ崎士朗、川上正也、北野繁雄、木村貞夫（新支部長）、工藤泰雄、合田朗（支部長）、島村忠勝、神中寛、高橋昌巳、寺脇良郎（第56回支部総会長）、中野壽夫、中村明子、野沢龍嗣、早津栄蔵、久恒和仁、平山寿哉、三上襄、光岡知足、吉川昌之介（第55回支部総会長）、和気朗、渡辺嶺（幹事）

欠席者：山口英世

議 題：

#### 1. 新支部長、新評議員の紹介

合田支部長より新支部長、公選による新評議員の紹介があり、木村新支部長より支部長推薦の新評議員の紹介があった。

#### 2. 第12回評議員会および新評議員会議事録確認

#### 3. 第55回支部総会準備状況報告 （吉川支部総会長）

#### 4. 第56回支部総会準備状況報告 （寺脇支部総会長）

#### 5. 60年度決算報告、61年度予算案 について

#### 6. その他

次期評議員会への申し送り事項

————— 編集後記 —————

昭和57年夏の関東支部評議員および支部長の改選以来、合田支部長の下で、本支部の運営をお手伝いして参りましたが、3年目で木村支部長以下の新メンバーに業務を引きつぐことになりました。この間合田先生のアイデアで種々の試みがなされ、この「支部ニュース」の発行もその一つでした。たゞ編集者の不勉強、不手際で、どの程度会員の皆様のお役に立てたか、反省することばかりであります。この第3号は新旧支部長および評議員合同の席で、「旧」の締めくくりとして私共に編集を命ぜられたものですが、結局あまり変り映えのしないままに終わったことをお詫びします。「新」のもと斬新な紙面になることを祈っております。

11月の支部総会の席で会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

（Z）

日本細菌学会関東支部ニュース  
第3号（1985. 10. 14）  
編集・発行：日本細菌学会関東支部  
〒108 東京都港区白金 5-9-1  
北里研究所内  
(03-444-6161)